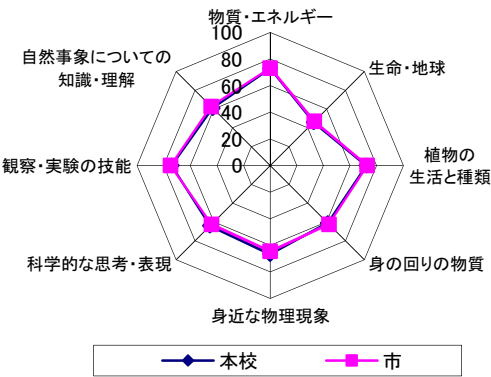


宇都宮市立陽南中学校 第1学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度	
		本校	市
領域別	物質・エネルギー	72.8	73.3
	生命・地球	46.0	47.0
	植物の生活と種類	72.3	72.9
	身の回りの物質	61.1	62.4
	身近な物理現象	66.7	64.5
観点別	科学的な思考・表現	64.0	62.5
	観察・実験の技能	74.0	74.8
	自然事象についての知識・理解	61.0	62.8



★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	市の平均に比べ、0.5ポイント下回っている。てこについての全体的な理解は市の平均とほぼ同じであるが、てこをつりあわせるために必要なおもりの重さを求める問題では課題が見られた。	てこの規則性を理解するために、実際に実験をすることと、簡単な計算を授業の中で行う必要がある。
生命・地球	市の平均に比べ、1.0ポイント下回っている。火山灰の層からとった粒の特徴の理解では市の平均を上回る一方、地層のでき方と水のはたらきとの関連には課題がある。	中学の教科書にも、地層のでき方について出てきているので、小学校の内容とリンクしながら学習の定着を図りたい。
植物の生活と種類	市の平均に比べ、0.6ポイント下回っている。植物のからだのつくりとはたらきについては、市の平均を上回っている。一方、植物の分類に関する問題では、市の平均を下回る値が大きかった。	自分で観察した植物がどの種類なのか考えさせたり、問題を解かせることで分類が正確にできるようにしたい。
身の回りの物質	市の平均に比べ、1.3ポイント下回っている。身のまわりの物質とその性質の問題は市の平均を上回っている一方、水素の発生法では20ポイントほど市の平均を下回っているのが課題である。	水素を発生させる実験をしたとき、水素の特徴に目がいきがちだが、発生した気体だけでなく実験に使った物質をよく確認する必要がある。
身近な物理現象	市の平均に比べ、2.3ポイント上回っている。光の規則性を理解して問題を解くことができたようである。	光の規則性の基本的な問題に関しては、比較的できているようである。今後は、凸レンズの問題や応用問題にもチャレンジさせていきたい。